

■長谷川等伯 絵師(画家)。水墨画和様化の極致「松林図屏風」。独自の金碧画で一門率い、狩野派と画壇の覇権争い。
はせがわとうはく
1539= 能登国七尾の生れ。

鉄砲伝来・1543= 4歳:

能登の染色業者長谷川宗清の養子となり、画事を養父に習った。

上杉謙信登場1548= 9歳:
ガビエル来日1549=10歳:

川中島の戦始1553=14歳:

長谷川家は法華宗で菩提寺は本延寺。その関係で、法華関係の仏画、肖像画などを多く手がけた。

1557=18歳:

桶狭間の戦・1560=21歳:

能登地方には「日乗上人像」(妙成寺), 「達磨図」(竜門寺), 「十六羅漢図」(靈泉寺)などが現存しております,

川中島の戦終1564=25歳:「十二天像」,「釈迦・多宝仏図」,
将軍義輝自刃1565=26歳:「日蓮上人像」などを描く。

1566=27歳:

織田信長入京1568=29歳:長男誕生。「涅槃図」。

比叡山焼討・1571=32歳:養父母相次いで死去。*上洛。本延寺の縁で本法寺を宿坊とし、法華関係の画事から手がける。

三方原の戦・1572=33歳:「日堀上人像」を描く。

室町幕府滅亡1573=34歳:この年までに「武田信玄像」を描く。

長篠の戦・1575=36歳:

「花鳥図屏風」,「牧馬図屏風」などの花鳥図や風俗図も手がけ、その技量を武家社会にも認めさせた。

安土教会許可1579=40歳:妻が死去。

やがて、大徳寺に入りし、利休をはじめ堺の茶人たちとも交友をもち、画作の場は禅寺にも広がる。

本能寺の変・1582=43歳:

賤ヶ岳の戦・1583=44歳: *この頃、大徳寺総見院の障壁画を制作し、等伯と改号(円徳院・楽家)。

長久手の戦・1584=45歳:

豊臣秀吉閑白1585=46歳:

1589=50歳: 大徳寺三門の天井画、柱絵を描く。同三玄院の「山水図襖」では、独特の余白造成と真行草の使い分けに成功し、水墨画を近世的意匠に高めた。牧谿の図を見てインパクトを受ける。

秀吉全国統一1590=51歳: 御所造営に際し、障壁画制作を狩野永徳一門と争う。

文禄の役・1592=53歳:

方広寺大仏殿1593=54歳: 秀吉が長子鶴松の菩提のため建立した祥雲禪寺の障壁画制作には、一門を率いてあたり、「楓図襖」「松に黄蜀葵図」など桃山美術の記念碑的大作をものにした。この時「桜図襖」で画名を上げた息子久蔵が死去、上京以来のライバル狩野派との抗争にも疲れらしい。

ルン島通交・1594=55歳:「春屋宗園像」を制作。*この頃、最高傑作「松林図屏風」のほか、「老松図襖」,「猿猴竹林図屏風」,「枯木猿猴図」などの水墨画の傑作が生まれた。

閑白秀次事件1595=56歳:「千利休像」を描く。

慶長の役・1597=58歳:

豊臣秀吉没・1598=59歳:「妙法尼寿像」を描く。

前田利家没・1599=60歳:本法寺再興に尽力して本堂天井画「仏涅槃図」を寄進、「山水図襖」を制作。

関ヶ原の戦・1600=61歳:

朱印船制始・1601=62歳:「商山四皓・猪頭覗子図襖」を制作。「禪機図襖」など、単純で象徴的な筆線の水墨画に画境を深めた。

東本願寺創建1602=63歳:

糸割符法始・1604=65歳:「法橋に叙せられる。

徳川家康隠居1605=66歳:「法眼となる。

江戸城完成・1606=67歳:「龍虎図屏風」「群虎図屏風」を描く。

家康駿府退隱1607=68歳:「竹林七賢図屏風」「梟鳥図屏風」を描く。

1608=69歳:「日通上人像」などを描く。

島津琉球支配1609=70歳:「十六羅漢図屏風」などを描く。

琉球使始・1610=71歳: *徳川家康の招きで江戸に下り、まもなく没したという。